

第12回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 国土交通大臣賞・環境大臣賞 決定



左上 : 屋上緑化部門
 右上 : 屋上緑化部門
 左下 : 壁面・特殊緑化部門
 右下 : 壁面・特殊緑化部門

国土交通大臣賞
 環境大臣賞
 国土交通大臣賞
 環境大臣賞

東急キャピトルタワー
 首都高大橋換気所屋上自然再生緑地「おほはしりの杜」
 キャナルシティ 博多 イーストビル
 味の素スタジアム 西競技場

1 コンクールの目的

建築物の屋上等特殊空間（通常の方法では緑化が困難とされ、緑化に高度な技術を要する空間）の緑化は、都市におけるヒートアイランド現象の緩和、省エネルギーの推進、生物多様性の確保、景観の向上等都市環境の改善に非常に有効であり、積極的に推進することが望まれています。

本年度で第12回目を迎える屋上・壁面・特殊緑化技術コンクールは、屋上等特殊空間の緑化について、積極的に取り組み、優れた成果をあげている民間企業、公共団体、個人等を顕彰することにより、その一層の普及推進を図り、もって都市環境の改善を進め、豊かな都市生活の実現に寄与することを目的としています。

2 応募対象

○部門 屋上緑化部門 建築物の屋上、屋根の緑化
 壁面・特殊緑化部門 建築物の壁面、屋内（アトリウム等）、ベランダの緑化、土木構造物の高架上空間、高架下空間、人工地盤の緑化等

○応募できる作品 平成24年3月までに完成したもの

3 受賞作品 別紙1（受賞作品及び受賞者一覧）、別紙2（受賞作品の概要）

4 審査委員 別紙3

5 表彰式 平成25年10月23日（水）14:00～ 東京ガーデンパレス 高千穂
 東京都文京区湯島1-7-5 TEL:03-3813-6211

主催 公益財団法人 都市緑化機構

後援 国土交通省、環境省、東京都、日本経済新聞社

特別協賛 住友林業 株式会社

協賛 一般財団法人公園財団 公益財団法人都市計画協会 一般財団法人日本造園修景協会 一般財団法人日本緑化センター 一般社団法人日本公園緑地協会 一般社団法人日本造園建設業協会 一般社団法人日本公園施設業協会 一般社団法人日本建設業連合会 一般社団法人公共建築協会 一般社団法人不動産協会 一般社団法人日本造園組合連合会 一般社団法人日本植木協会 一般社団法人都市計画コンサルタント協会 公益社団法人日本造園学会 一般社団法人日本ビルディング協会連合会 一般社団法人日本建築学会 一般財団法人日本建築センター 財団法人日本宝くじ協会 一般財団法人民間都市開発推進機構 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会

問い合わせ先

公益財団法人 都市緑化機構
 上野 今井 小松
 〒101-0021 東京都千代田区神田神保町3丁目2番4号田村ビル2F
 TEL:03-5216-7191 FAX:03-5216-7195

第12回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 受賞作品及び受賞者一覧

別紙 1

平成25年度

●国土交通大臣賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	東急キャピトルタワー	東京都千代田区	東京急行電鉄 株式会社
			永田町二丁目計画 東急設計コンサルタント・観光企画設計社 設計共同企業体
			株式会社 隈研吾建築都市設計事務所
			株式会社 ブレイスメディア
			清水建設 株式会社
壁面・特殊緑化部門	キャナルシティ 博多 イーストビル	福岡県福岡市	株式会社 日比谷アメニス
			福岡地所 株式会社
			株式会社 日本設計
			株式会社 フジタ 九州支店
			西武造園 株式会社

●環境大臣賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	首都高六橋換気所屋上自然再生緑地「おおはし里の杜」	東京都目黒区	首都高速道路 株式会社
壁面・特殊緑化部門	味の素スタジアム 西競技場	東京都調布市	東京都 株式会社 日本設計

●日本経済新聞社賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	東急プラザ 表参道原宿 「おもはらの森」	東京都渋谷区	東急不動産 株式会社
			株式会社 NAP建築設計事務所
			株式会社 竹中工務店
			株式会社 石勝エクステリア
壁面・特殊緑化部門	住友商事神保町ビル	東京都千代田区	住友商事 株式会社
			株式会社 日建設計
			住友林業緑化 株式会社

●都市緑化機構会長賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	第一生命新大井事業所	神奈川県 足柄上郡大井町	第一生命保険 株式会社
			株式会社 竹中工務店
壁面・特殊緑化部門	MIHO美学院中等教育学校 壁面緑化	滋賀県甲賀市	IO ARCHITECTS LLP
			小松精練 株式会社
			株式会社 トークン

●都市緑化機構理事長賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	豊洲キュービックガーデン 屋上庭園	東京都江東区	第一生命保険 株式会社
			株式会社 第一ビルディング
			清水建設 株式会社
			株式会社 フィールドフォー・デザインオフィス
			イビデングリーンテック 株式会社
壁面・特殊緑化部門	西早稲田キャンパス65号館壁面緑化	東京都新宿区	学校法人 早稲田大学
			大成建設 株式会社
			内山緑地建設 株式会社
			オリジナルシステムプランニング
			株式会社 マリンフロート

●審査委員会特別賞

受賞部門	受賞作品	施設所在地	受賞者
屋上緑化部門	四ツ谷駅エコステ	東京都新宿区	東日本旅客鉄道 株式会社
			第一園芸 株式会社
			東鉄工業 株式会社
壁面・特殊緑化部門	松阪市庁舎本館 耐震補強フレームを活用した「緑のショール」	三重県松阪市	前田建設工業 株式会社
			松阪市
			岩間造園 株式会社
			株式会社 杉孝

国土交通大臣賞：屋上緑化部門

東急キャピトルタワー

(所在地) 東京都千代田区

(受賞者) 東京急行電鉄 株式会社

永田町二丁目計画 東急設計コンサルタ

ント・観光企画設計社 設計共同企業体

株式会社 隈研吾建築都市設計事務所

株式会社 プレイスメディア

清水建設 株式会社

株式会社 日比谷アメニス

■作品の概要

本作品は、キャピトル東急ホテルの建替えて新築されたホテル・オフィス・住宅からなる複合ビルにおいて2階、3階、4階に設けた2,447㎡の屋上庭園で、荷重は1,000kg/㎡である。特徴的な緑化技術として、①既存の環境資産を活かす配置計画、②立体的な緑化の基盤形成、③持続的な環境形成への取組をあげている。

本作品では、建築物の基壇部分が隣接する山王日枝神社の丘の一部をなす従前の建物配置計画を継承しつつ、低層部に人工地盤上の緑化を大きく取り入れることで、より一体性を高めた景観を創出している。また、植栽基盤の土層厚を概ね1.0mと大きく確保することで、植栽の生育の安定化を図っている。さらに、地区計画で定められた歩行者動線は、ホテル利用者のみならず一般の市民も利用可能で、緑豊かな空間を多くの人々が共有することを可能にしている。維持管理については、持続的な環境形成を視野に入れた中期育成管理計画を策定し、関係者による巡回や調整会議を計画的に行っている。

周辺の社叢等の環境と相俟って、立体的で緑豊かな環境を具現化しており、大水面、起伏ある地盤、石組等にも意欲と技術力が表出している。持続的な環境形成に向けた維持管理の体制・内容も模範的であることなどが高く評価された。



国土交通大臣賞：壁面・特殊緑化部門

キャナルシティ 博多 イーストビル

(所在地) 福岡県福岡市
(受賞者) 福岡地所 株式会社
株式会社 日本設計
株式会社 フジタ 九州支店
西武造園 株式会社

■作品の概要

本作品は、商業施設の増設された新棟に設置された3,000㎡の壁面緑化である。特徴的な緑化技術として①建築意匠に追従する土と容器を使わない緑化工法、②竣工時の緑化意匠完成度と荷重軽減等諸条件との両立、③高さ方向の水分蒸散度や省管理を考慮した灌水設計をあげている。

本作品では、「博多駅～キャナルシティ博多～天神」間の回遊性向上と活性化を目指していることから、建物を包み込み、道行く人を効果的に誘導する緑の機能が求められていた。そのため、下向きに傾斜させた建物上部の緑化壁面を外周側の街路側から中央モールまで連続させる配置を行っている。植栽基盤は、ステンレスのメッシュフレームに、繊維質の固化培土をはめ込んだユニット型工法を採用している。軽量化とコスト削減のために、補助資材と緑化ユニットを半々の比率で市松状に設置している。灌水装置については、上部ほど蒸散量が多い壁面緑化の特性に対応し、高さ別に灌水システムを分け、つまりにくい本管と枝管を分岐させるとともに、故障の警報装置を導入するなどの対策を実施して灌水の不具合による枯損への対策を行っている。

植物の生育も良好で景観的にも優れており、ユニット型工法による植栽基盤、荷重とコストの削減への工夫、灌水設計などの技術や、モックアップの作成等による各種の検証を実施して優良な作品にまとめている点等が高く評価された。



環境大臣賞：屋上緑化部門

首都高大橋換気所屋上自然再生緑地「おおはし里の杜」

(所在地) 東京都目黒区

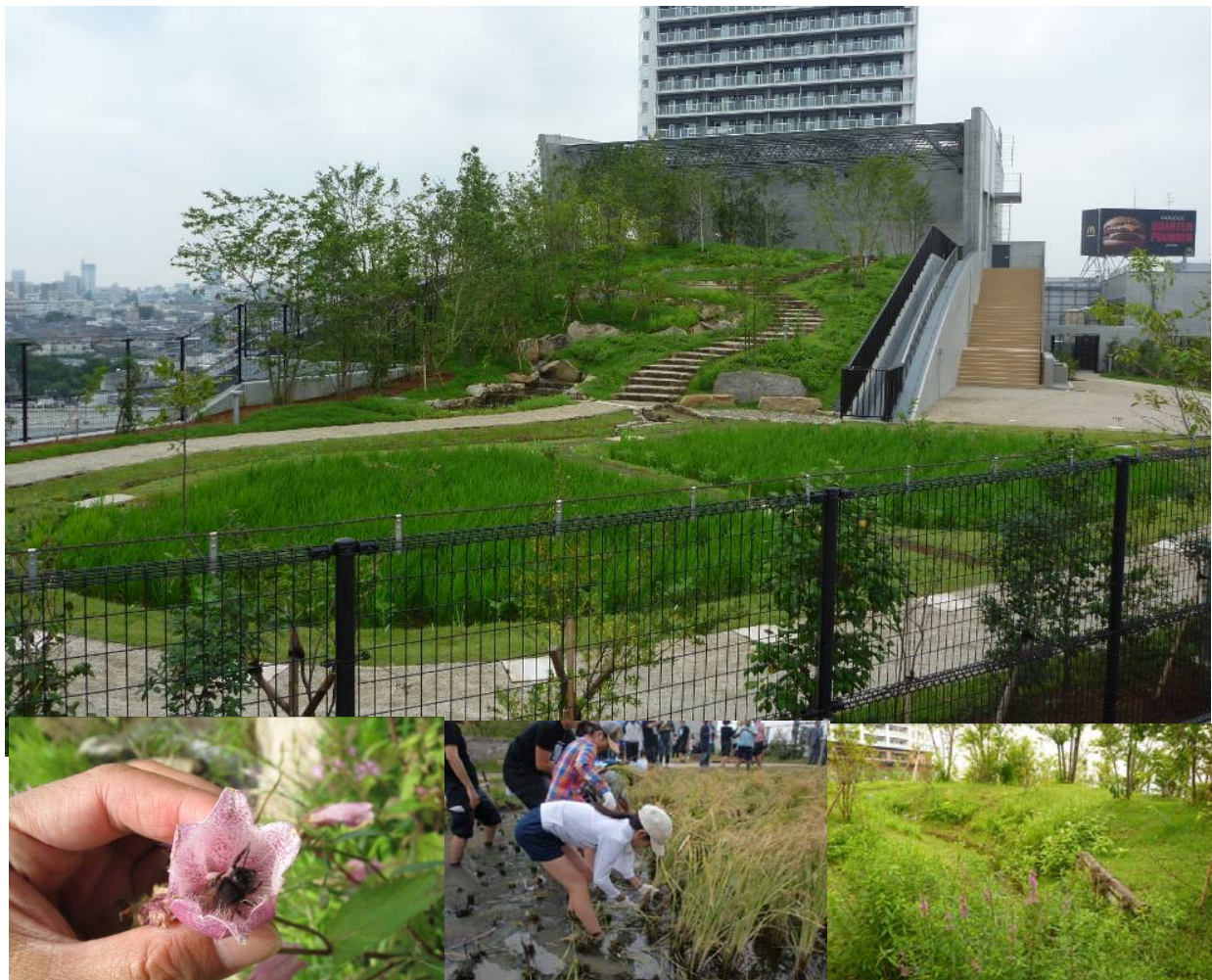
(受賞者) 首都高速道路 株式会社

■作品の概要

本作品は首都高大橋ジャンクションの大橋換気所の7階屋上に新設された屋上庭園で面積が1,176㎡、荷重は592～1,090kg/㎡である。特徴的な緑化技術として①目黒の原風景と生物多様性に配慮した植栽の整備・管理、②循環型社会の形成に向けた水循環システム等の導入、③周囲の歴史的な自然環境に配慮した計画をあげている。

本作品では、人と自然が共生していた目黒川周辺の原風景を再生することをめざし、斜面林、草地、湧水とせせらぎ、池、水田を設置している。緑化材料として地域性種苗を活用するとともに、斜面地の倒木防止の地下支柱、土砂流出防止基礎の設置、軽量化のためのEPSの採用等によって斜面林を実現している。換気所屋上に降った雨水は、地下の貯留槽に貯め、浄化した後に水田用水として再利用する水循環システムを採用している。また、水田等において近隣小学校と田植え、自然観察会、稲刈り、脱穀等をテーマとした稲作体験イベントなどを実施して、地域住民との交流を行っている。

循環型社会、都市における「農」、自然再生、生物多様性等に関する考え方、技術力等が凝縮された優れた作品であり、都市における大規模な人工的施設のあり方と計画手法に多くを示唆していることや、モニタリングの実施、稲作イベントによる交流事業の内容などが高く評価された。



環境大臣賞：壁面・特殊緑化部門

味の素スタジアム 西競技場

(所在地) 東京都調布市

(受賞者) 東京都

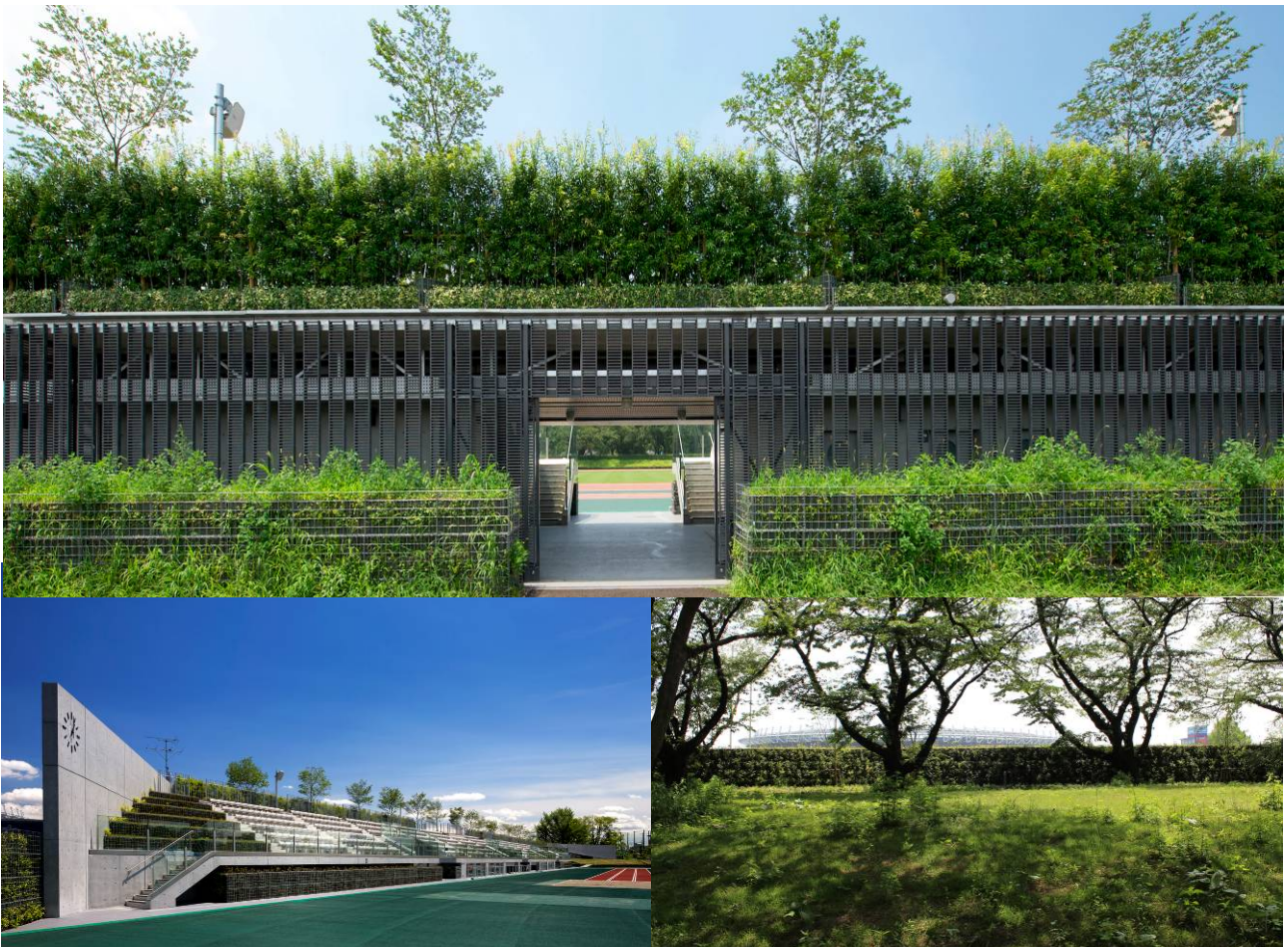
株式会社 日本設計

■作品の概要

本作品は、競技場のスタンドを地面との一体化をめざしつつ 14,610 m²の壁面緑化等を用いて緑化したものである。特徴的な緑化技術として①建築の地形化、②緑に囲まれた競技場、③在来種を多種採用したサステイナブルな緑化計画をあげている。

本作品では、武蔵野をコンセプトとして、武蔵野の森にふさわしい在来種を 50 種以上植栽することで、それらに囲まれた、美しい緑のスポーツ施設の創造を目指している。使用する材料は「自然な」ものの有り様を、また、建築において「地形化」をめざしている。そのため、スタンド棟の高さを極力低くし、半地下とした空間に諸室を収めている。加えて、スタンド上には垣根と高木を植栽し、足元周りには壁面緑化と蛇籠による緑の確保を行っている。更に、敷地内に点在していた 20m級の既存高木を敷地内適所に移植して、竣工直後から緑豊かな環境を実現した。これらを競技場全周に渡り展開することで、緑に囲まれた競技場を実現している。

大規模な壁面緑化を活用しつつ、建築の「地形化」する技術は、環境の時代における建築の一つの方向性を示しているものとして、また、芝スタンドや既存木の移植、在来種など「自然な」モノを追及し、全体的に落ち着いた空間づくりに成功していることなどが優れた作品として高く評価された。



日本経済新聞社賞：屋上緑化部門

東急プラザ 表参道原宿「おもはらの森」

(所在地) 東京都渋谷区
(受賞者) 東急不動産 株式会社
株式会社 NAP 建築設計事務所
株式会社 竹中工務店
株式会社 石勝エクステリア

■作品の概要

本作品は、新設の商業施設 5・6・7 階の屋上に設けられた屋上庭園である。作品面積は 362 m²、荷重は 1,500kg/m²である。特徴的な緑化技術として①生物多様性保全に配慮した緑化、②樹木固定に関する対応、③景観や生態系に配慮した維持管理をあげている。

本作品では、施設に「こんもりとした森」がのっているような豊かな景観を演出するため地上 30m の屋上部に高さ 8m 内外のケヤキやクスノキを植栽し、併せてチョウや野鳥が好む実物、花物などの植栽を実施し、竣工後より継続的にモニタリング調査を実施している。また、高所に植栽した高木の強風対策として、特注の地下支柱を設置し、樹木同士のワイヤー連結や追加ワイヤー張りを行うなど、台風時の補強のための工夫を行っている。管理では、透かし剪定を基本とし、中央側の樹木は野鳥の休憩のために葉が多めとなるように管理するとともに、総合的な病虫管理を行い農薬の使用を最小限に留め、有機質の堆肥や肥料を鋤き込むことで、持続可能な土壌環境をつくり、植物の抵抗力の向上を図っている。

ファッション性の高い交差点の立地条件を活かし、「森」のような外観まで考慮した優れた作品であり、生物多様性保全への配慮、台風対策にも配慮した安全性のための樹木固定技術などへの取り組みが高く評価された。



日本経済新聞社賞：壁面・特殊緑化部門

住友商事神保町ビル

(所在地) 東京都千代田区
(受賞者) 住友商事 株式会社
株式会社 日建設計
住友林業緑化 株式会社

■作品の概要

本作品は、新築の事務所ビルの1Fに設置された81.4㎡（南面52.6㎡/北面28.8㎡）の壁面緑化である。特徴的な緑化技術として①神田の街並みに溶け込むデザイン、②設置場所に応じた緑化工法の採用、③地域から親しまれる緑地を維持するためにをあげている。

本作品では、ビジネスエリアでありながら古くからの建造物が残る町「神田」に位置し、その歴史的街並みに溶け込む再開発をめざして計画されたものである。本棚をモチーフとした彩り豊かな壁面緑化を日本で古くから親しまれてきた品種25種を用いて表現している。また、四季を感じられるように彩りや配置にも工夫を行っている。加えて、緑化ポットと同じモジュールの照明を設計し夜間の演出にも配慮している。屋上には、分煙スペース等を持っている屋上庭園も整備している。更に、北側壁面の壁面緑化では、地植えのワイヤー式垂直緑化を実施している。また、管理面では、晴海トリトンスクウェアで常駐管理を実施している熟練スタッフが定期的な巡回を行ない、蓄積したノウハウを活かした管理を実施している。

本棚のイメージの設定などに地域特性が感じられ、「設置後約1年で10mまで登攀」を可能にした技術を導入するなど、細部に渡って工夫された取組みが高く評価された。



都市緑化機構会長賞：屋上緑化部門

第一生命新大井事業所

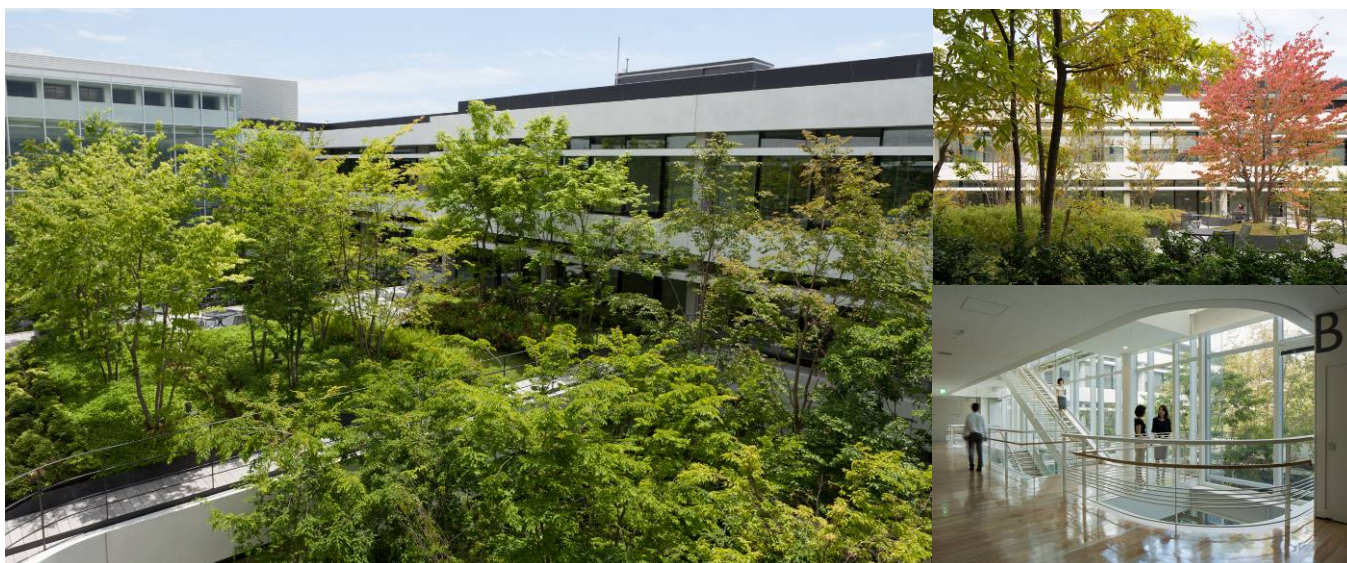
(所在地) 神奈川県足柄上郡大井町
(受賞者) 第一生命保険 株式会社
株式会社 竹中工務店

■作品の概要

本作品は、事業再編によって新設された事務所ビル・倉庫/配送センターからなる複合施設の4Fおよび、最上階屋上に設けられた5,586㎡の屋上庭園で、荷重は、480kg/㎡である。特徴的な緑化技術として①周辺植生を取り入れた屋上緑化の実現と維持管理、②業務での集中につながるリラックスを生む中庭の緑、③内外をつなげる立体的な屋上緑化をあげている。

本作品では、業務への高い集中を生み出すためには、空間体験の変化が質の高いリラックス効果を生むとの考え方から、休憩や昼食、手洗いなどの日常の何気ない移動を大切に考えている。中庭の屋上緑化を各階から楽しむことができるよう手洗いやEVホールとの動線も考慮し配置や通路内の見えかたを設計している。また、建物の断面を地形としてみたと、2・3階の明るい中庭は、丘陵のコナラ・クヌギの雑木林、B1中庭・東庭は、台地のモミジ林、西側テラスは、台地のヤマザクラ・ミズキに見立て、西庭のケヤキにつなげている。周辺施設の圧迫感の軽減にも考慮しており、植栽の種類に応じて必要な植栽基盤厚を適切に設定するとともに、植栽管理ガイドラインを設けるなど設計意図を反映した維持管理を実現するための配慮が行われている。

緑化設計と建築設計が連携し魅力ある立体的なリラックス空間を創出しており、また、上から見る樹冠の広がり、囲われ感のある樹木群など様々な景観を創出している点を技術的な裏付けのもと実現しており、「植栽管理ガイドライン」の策定を行うなど、維持管理も考慮した取組みが評価された。



都市緑化機構会長賞：壁面・特殊緑化部門

MIHO美学院中等教育学校 壁面緑化

(所在地) 滋賀県甲賀市

(受賞者) IO ARCHITECTS LLP

小松精練 株式会社

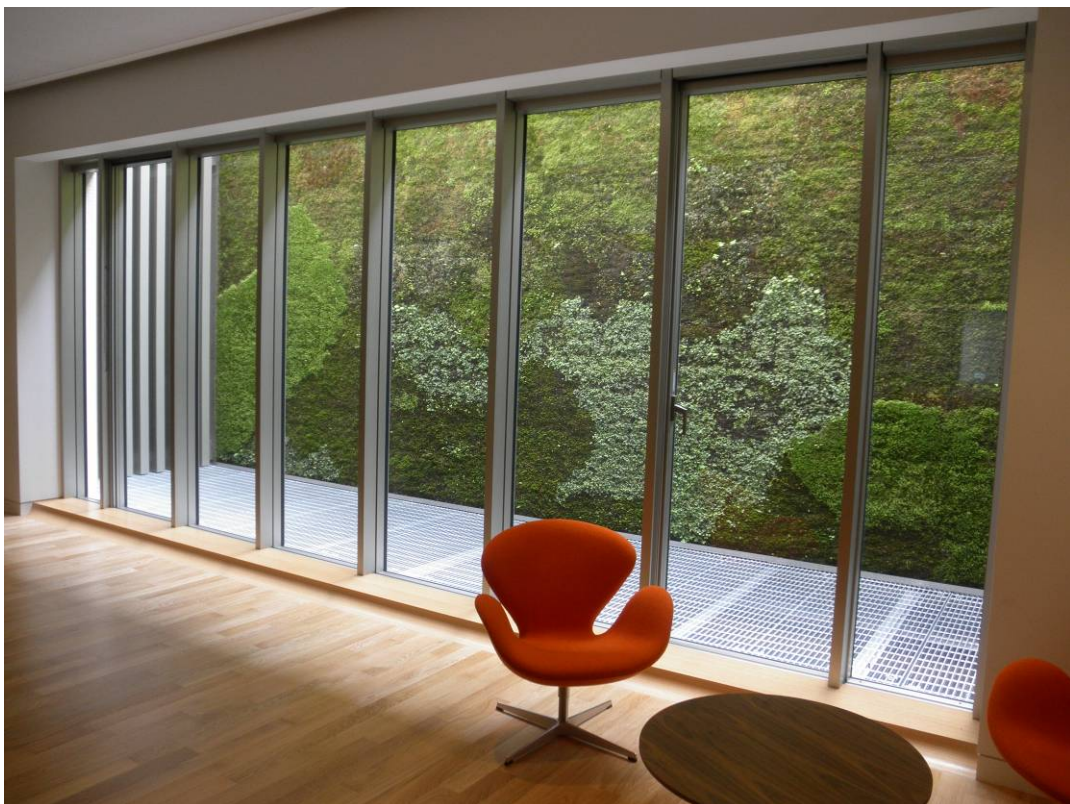
株式会社 トーケン

■ 作品の概要

本作品は、全寮制の中高一貫校の事務管理棟地下・美術教室前にコケを用いて作られた 41.68 m²の壁面緑化である。特徴的な緑化技術としては①水分の均一供給・最適分配の機能を備えて生物層を創る環境適応型壁面緑化システム、②コケ植栽による室内外の環境改善効果と植生遷移誘引による生物多様性への配慮、③意匠性の高い室内空間演出と施工機能化・維持管理の省力化をあげている。

本作品では、維持管理と意匠の観点、更に生物多様性に考慮し、9種類のコケを使用している。そして、室内上部から取り入れた光による多様なコケの見え方によって、抽象画のような趣きを室内空間につくりだすことをめざしている。複数のコケは、四季折々に彩りと棲み分けがかわるため、グラデーションの変化が演出され、時期や環境に応じた移り変わりを鑑賞できる生きたグラフィックアートとなっている。壁面緑化基盤には、500×1000mmのパネルを使用し、下地金物に取り付け、そのパネル上にコケの植栽シートを施すことで、施工の簡便化と補植の簡易化を実現している。植栽基盤は、保水セラミックス上に特殊処理をした自然のミズゴケを覆って基盤としている。ミズゴケによる水分を均一に供給する働きを活かし、水分供給を安定させるシステムである。灌水システムは、水分の均一供給と最適分配を有効に行うために循環式の灌水を行っている。

室内空間とコケ緑化によるデザインへの取り組み、補植のしやすさも含めたコケ緑化技術の使用意図が明確に分かる壁面緑化についての技術開発の枠組みと意欲が評価された。



都市緑化機構理事長賞：屋上緑化部門

豊洲キュービックガーデン 屋上庭園

(所在地) 東京都江東区

(受賞者) 第一生命保険 株式会社

株式会社 第一ビルディング

清水建設 株式会社

株式会社 フィールドフォー・デザインオフィス

イビデングリーンテック 株式会社

■ 作品の概要

本作品は新築事務所ビルの低層棟 2 階、高層棟 11 階、14 階の屋上に作られた 1,763 m²の屋上庭園であり、屋上庭園部分の荷重は 90~180kg/m²である。特徴的な緑化技術として①多様な特殊緑化技術を活用した建築物緑化、②マウンド造形と緑のボリューム感溢れる屋上庭園、③高木緑化によるラウンジの屋上庭園をあげている。

本作品では、緑豊かなオフィス環境の構築を目指し、「自然を取り込む」をテーマに、最上階には薄層緑化、11 階には吹き抜けラウンジの屋上庭園、14 階テラスには屋上緑化・壁面緑化、低層棟の屋上庭園、2 階ボイド空間に設置したコンテナ緑化等、建物の各所に憩いの場となる屋上庭園を整備している。

屋上庭園の整備にあたっては、EPS の嵩上げとマウンド造成によりアンジュレーションをつくとともに、外周柵の外側に植栽をするなどの工夫によって、周辺からの景観への配慮を行なって緑視率を高めるとともに、敷地内の緑化率も 40%を実現している。

東京湾に面した立地条件への配慮、特に風の道の確保に配慮している点が先駆的であり、各種の特殊緑化技術を、おおらかな起伏のある芝生広場や高木でまとめている。また、吹き抜けラウンジなどデザインにも工夫がみられることなどが評価された。



都市緑化機構理事長賞：壁面・特殊緑化部門

西早稲田キャンパス 65号館壁面緑化

(所在地) 東京都新宿区

(受賞者) 学校法人 早稲田大学

大成建設 株式会社

内山緑地建設 株式会社

オリジナルシステムプランニング

株式会社 マリンフロート

■ 作品の概要

本作品は、早稲田大学のキャンパスの耐震改修に伴う明治通り側の外壁改修と合わせて新設された120㎡の壁面緑化である。特徴的な緑化技術として①地域性樹種のみを採用し早稲田地区の生態系への調和と「エコロジカルネットワーク」を強化、②豊かな緑量と容易なメンテナンスを実現する多段式プランター緑化システム、③歩行者体感温度2℃低下の実現とヒートアイランド現象緩和および都市景観の向上をあげている。

本作品では、緑豊かで心地よい都市との接点をつくることを目的として、校舎の地上部付近に壁面緑化を設置したものである。植栽にあたっては、「新宿区緑の基本計画」の中での「7つの都市の森」としての位置づけを踏まえ、みどりの充足と早稲田の生態系への調和をめざして、周辺地域の「森」や「風のみち」に生育する植物調査を元に植栽種を選定している。緑のボリュームを演出するために低木類を採用し、格子状に組んだ下地鉄骨にプランターを3段に積み上げる緑化を実施している。プランターは、軽量の海洋用フロート技術を利用したEPS製となっている。また、灌水は、最上段のみに設置し、下段は自然落下で供給している。更に、温熱シミュレーションでは、体感温度が2度低減することについても確認を行っている。

大学キャンパスの壁面を、基本的な技術を堅実に応用して緑化していること、室外機からの風の分散などきめ細かい配慮ある点、温熱シミュレーションの画像は具体的で分かりやすいことなどが評価された。



審査委員会特別賞：屋上緑化部門

四ツ谷駅エコステ

(所在地) 東京都新宿区
(受賞者) 東日本旅客鉄道 株式会社
第一園芸 株式会社
東鉄工業 株式会社

■ 作品の概要

本作品は JR 四ツ谷駅本屋 2F 屋上とホーム屋根屋上に新設された屋上庭園と屋上緑化である。面積が 725 m²、荷重は本屋が 100kg/m²、ホーム屋根が 20kg/m²である。特徴的な緑化技術として①緑化の軽量化、②省メンテナンス化、③コケの灌水方法をあげている。

本作品では、省エネルギー・再生可能エネルギーなど様々な環境保全技術を導入した環境配慮型の駅である「エコステ」の第1号である。四ツ谷駅は、江戸城外濠の史跡にあるが、その歴史性と豊富な自然環境を活かし、「屋上・ホーム屋根緑化」に取り組んでいる。屋上緑化では、「外濠の土手」と「葉の形」をデザインしたマウンドをつくり、平坦な屋上に緑化を用いて立体感を表現している。また、感温性の保水剤が含まれているマットを植栽基盤に採用しており、節水を図っている。コケは、乾燥が続いた場合の対応としてミスト灌水を採用するとともに、灌水の時間帯に考慮するなどの配慮を行っている。

屋上緑化・ホーム屋根緑化を環境配慮型の駅づくりに積極的に取り入れ、今後の駅のあり方の方向性を示している点が評価された。



審査委員会特別賞：壁面・特殊緑化部門

松阪市庁舎本館 耐震補強フレームを活用した「緑のショール」

(所在地) 三重県松阪市

(受賞者) 前田建設工業 株式会社
松阪市

岩間造園 株式会社

株式会社 杉孝

■ 作品の概要

本作品は、市庁舎本館の耐震補強工事によって設置された耐震フレームを緑化した 530 m²の作品である。特徴的な技術として、①植栽容器、緑化面、排水に配慮した入念な基盤設計、②落葉種を混用し、四季を紡ぐ育成型の「緑のショール」、③日常維持管理に配慮した、雨水を利用した自動灌水システムと植栽容器の大きさをあげている。

本作品では、建物外部に取り付けられた耐震補強フレームが無骨な景観を呈しないように、3階テラス上の耐震補強フレーム部に、壁面緑化用ネットを併設し、つる性植物による壁面緑化を行っている。外付けの耐震補強方法は、今後も増加が考えられるが、これに対する景観上の配慮としての提案で「緑のショール」と名づけている。また、植栽容器の素材と十分な植栽基盤の容量、確実な排水の取り方、自動灌水への雨水利用などの技術的な面に考慮しつつ、管理者となる市職員が安全に管理できるよう、3階のテラスから集中的に管理できる計画としている。また、植栽種には、登攀適性、成長力、耐候性、葉色等を考慮しつつ、安定性した生育と建物にフワッと掛けられたショールになるような樹種を選択している。

市庁舎の壁面緑化の優良事例として参考になり、壁面全体から見ると緑の占める割合は少なめだが、堅実な技術で成果を挙げており、植栽容器のデザイン（材料等）にまで配慮している点や「緑のショール」といった耐震補強フレームに対する新しい提案が評価された。



第 12 回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール審査委員会 名簿

委員長 近藤 三雄 東京農業大学 地域環境科学部 教授

委 員

井上 洋 一般社団法人 日本経済団体連合会 社会広報本部長

仙田 満 東京工業大学 名誉教授

野口 智子 ゆとり研究所 所長

半田 真理子 東京農業大学 客員教授

藤森 照信 工学院大学 工学部 建築学科 教授

真部 保良 日経 BP 社 日経 B P インフラ総合研究所 主席研究員

森本 幸裕 京都学園大学 バイオ環境学部 教授

山崎 誠子 (有) G A ヤマザキ取締役、日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科准教授

町田 誠 国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室長

山根 正慎 環境省 水・大気環境局 大気生活環境室長補佐

笹井 俊克 一般財団法人 日本建築センター 専務理事

宮下 和正 公益財団法人 都市緑化機構 専務理事

(敬称略 順不同)